

信徒講座：宣教の使命に生きる⑥

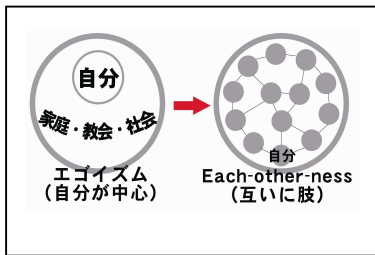
VIII. 現代の諸「宣教会議」

- **20~21 世紀の宣教会議**：20 世紀に入りそれ迄個別の宣教団体によって行われていた宣教活動を互いの理解と協力という角度から見直すような「宣教会議」が幾つか開かれた。①1910 年の「エジンバラ宣教会議」は J. R. モットに主導され、今日迄続くエキュメニカル運動の始まりとなった。この結果「国際宣教協議会(IMC)」が発足し、その後の世界宣教を集約・強化した。更に「世界教会協議会」(WCC)に発展した。②1974 年の「ローザンヌ世界伝道会議」は、その後の福音派による世界宣教に大きな影響を与えた。個人の回心に焦点を当てた狭い意味での伝道だけでなく、社会的責任も含む広い視野の宣教が意識されるようになった。ジョン・ストットが主導した「ローザンヌ誓約」でその事が謳われ、ワールド・ビジョンや国際飢餓機構の働きに具現された。ケープタウンでの第三回ローザンヌ世界宣教会議(2010 年)で宣教協力が確認された。同会議の「決意表明」は、幅広い宣教理解に立ちつつも、聖書的な切先を明確にした方向性が謳われ、「全福音を、全世界に、全教会で広めよう」という決意表明が打ち出された。第 4 回ローザンヌ世界宣教会議は、今年 2024 年韓国で開かれる。これら諸宣教会議で屢々使われた言葉が「ミッシオ・ディ」(神の宣教)である。社会正義の確立を含む広義の「神の支配」、「神の国の確立」こそが宣教との理解である。私は、宣教とは、それによってのみ救いを齎す福音の伝達を切先とし、その結果生じる教会の形成を第一に考え、その教会をして社会における預言者的働きを為さしめるように後押しする事と理解する。

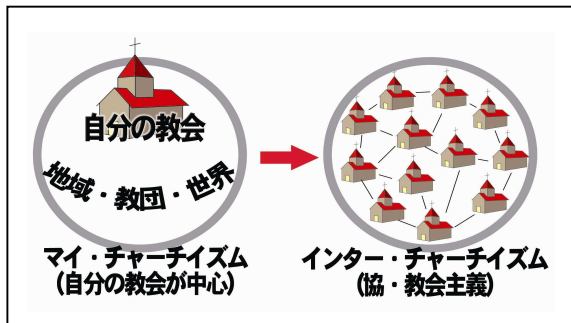
IX. 宣教協力の必要性と課題

1. **教会間・教派間の宣教協力**:教会とはそもそも公同的なものである。それを、深く認識し実践する事を求めるのが公同教会主義。その為に三つのパラダイムシフトを提唱する:。①エゴイズム(自分中心主義)から「お互い主義」へ;②マイチャーチイズム(自分の教会中心主義)から公同教会主義へ;③ディノミネーションナリズム(教派エゴ)から協教派主義へ(付図参照)
2. **パラチャーチ伝道**:更に、一教会ではカバーしきれない青年伝道、放送伝道、国外宣教、ディアスポラ伝道などのパラチャーチ伝道や教育、福祉などの多方面で、多くの教派・教団・教会が協力して支えて行く事が有意義である。
3. **日本伝道会議の存在と意義**: 1974 年、第一回日本伝道会議が京都で開かれ、第二回(1982 年)、第三回(1989 年)、第四回(2000 年)、第五回(2009 年)、第六回(2016 年)、第七回(2023 年)と積み上げられてきた。JEA(日本福音同盟)が主体であるが、参加は広く福音派の諸教会・団体に開かれている。会議毎に次の会議迄の協力関係と内容(プロジェクト)が示され、ロードマップという形で活動目標が示された。プロジェクトの中には、持続可能な社会の構築(環境問題など)、災害対応、ファミリーミニストリー、ディアスポラ宣教協力、ビジネス宣教協力、教会開拓、青年宣教、子供ミニストリーなど生活に密着した多くの課題が扱われた。

図表 1



図表 2



図表 3

